

# 貧血性母斑を伴へるレックリングハウゼン氏 多發性軟性纖維腫の一例

東京女子醫學專門學校皮膚科泌尿器科教室

山 本 峰 子

患者 岩上某男、二十五歲、陸軍士官學校馬丁、初診本年八月二十八日。

家族史 兩系祖父母に就ては不明、父は三年前五十七歲を以て腫物の爲に死亡し、母は現在六十三歲にて健在せり、兄弟は七人、患者はその末弟なり、兩親及兄弟尙ほ近親者に患者と類似せる皮膚疾患を認めず。

既往症 特記すべきものなけれど、患者は元來皮膚色通常よりも黒き方にして且生來身體の處々に褐色の色素斑を認め、其の他幼時より胸部に白色斑あるを氣付けりと言ふ。

現症歴 約二年前兩側上膊に豌豆大、皮膚と同色の結節を生じたるを認め、漸次増大せり、其後次第に同様の自覺的症狀を缺如せる結節を身體の處々に形成し來り、その數著しく多數となりたり。

現症 體格中等大、榮養佳良、骨及皮下脂肪組織の發育も亦良く何等畸形を認めず、皮膚色は一般に暗褐色に傾く、患者の顔面には面疱を伴へる尋常性瘰癧を見る、其の他軀幹四肢顔面等殆んど身體全面にわたり中指頭大乃至超指頭大の多數の柔軟なる腫瘍孤立性に散在せるを見、その數三十箇以上を算す、該腫瘍は其の境界明確、半球形をなすあり或は周圍皮膚との移行緩徐にして僅かに皮表に出で扁平なる隆起を呈せるあり、其色皮膚常色を帯ぶるもの、淡褐色をなせるもの或は青紅色の色調を帯びたるものあり。是等の外に

主として顔面胸部の下部より腹部の上部にまたがる部分、其他脊部の下方より腰部にかけて、米粒大乃至扁豆大の皮表より軽度の隆起をなせる小腫瘍が無數に播種狀に散在すそれ等腫瘍上表も亦褐色調或は青紅色調を呈す、該腫瘍は何れも皮膚と密著し皮下組織とは容易に移動す、その硬度は弾力性軟にして之を壓するも何等の疼痛を來さず或るものはその内部に索狀物或は核様物質を觸知し得、尙ほ大なる腫瘍の上表の毛囊口は多く著明となれるを認む。上記の如き多數の小腫瘍に混りて軀幹及び四肢に豌豆大乃至蠶豆大の褐色々素斑ありてその數約十箇、左側臀部に長徑約十五糎の横はれる「なすび」形をなす褐色々素斑を認む。これより右上方に約一糎の長さの黒色硬毛を有する拇指頭大の圓形暗褐色々素斑あり、

次に患者の前胸部を見るに腫瘍以外には一見變化なきも諦視する時は右側鎖骨下に拇指頭大のもの二箇、胸骨兩側に豌豆大のもの三箇、拇指頭大のもの一箇、即ち幽微なる色素脫失竈に類する限局性皮斑の存在を認む、この部位一帯を指を以て稍々強く摩擦し局所に潮紅を惹起せしむれば其等の發赤面上に劃然たる輪廓を呈する蒼白色皮斑を明かに認め得るに至る、硝子壓により境界は不明となる。周圍の皮膚面とは同高にして該皮斑上表に何等の異常、發疹を認めず。

皮膚標記症陰性、頭髮腋毛の發育正常、口腔咽頭粘膜に異常なく、眼科に於ける検査に依れば結膜角膜虹彩等に纖維腫と目すべきもの認むる能はず、中心視力正常、眼底は視神經その他に異常なく、視野にも差したる變化なしと言はる、内臟諸器も亦異常なし。精神状態には異常なき如きなれども患者と會話中幾分智力に缺陷ある如く覺えさせられたり。尿に異常成分認められず、ビルケ氏皮膚反應弱陽性、ワ氏反應、マイニツケ氏反應共に陰性、レントゲン寫真によれるトルコ鞍の形及大さ正常、血液所見正常、赤血球沈降速度はリントエンマイエル氏法によりて百四分、血液型はA型、血壓は最大血壓百二十耗、最小血壓八十耗。

皮膚腫瘍の組織學的所見は定型的の神經纖維腫の像を示せり。(以上)